

F-11 家庭科教育と生涯教育の関連性強化のための高校家庭クラブ指導の試み

広島大学(福山) ミ戸昭 ○小林葉子

目的 高校家庭科教育と家庭生活を対象とする生涯教育との関連性の強化のため、高校生のクラブ活動を通じて、家庭生活に密着した家庭科教育のあり方、方法等を究明し、家庭科教育の発展に資することを目的として、生徒のクラブ活動を指導している。以下、今までの知見を中間報告する。

方法 家庭生活に関わる生涯教育の基礎的な面であり、また高校家庭科(食物領域)の補足的立場から、農村地区の高校家庭クラブ活動の1つである食品衛生(食品からの大腸菌の検出)と血圧測定に関する指導内容、方法とそれらに対する生徒の認識、行動について考察、検討を行った。

結果 (1)「食品衛生」について：第一段階として食品からの大腸菌の分離、培養を指導したが、高校生で十分に大腸菌の検出ができることがわかった。大腸菌からさらにブドウ球菌等食中毒の原因菌に対する生徒の理解度を高めることができた。また細菌を実際に扱うことにより、食品の取り扱いに対する注意、手洗い等、目に見えない細菌に対する衛生的な生活活動への認識度が高まったと思われる。今後は実生活にそれらを応用させたいと思っている。(2)「血圧測定」について：生徒は血圧測定に非常に興味を示し、まず自分自身の血圧の日変化を調べ、次に家族の血圧測定を行う様になった。血圧測定の意義の認識、血圧測定の習熟のレベルにまで達したと思われる。今後は食生活或いは病気と血圧の関係等生徒及び家族の健康の診断の方向に発展させたい。(3)クラブ活動は未だ初歩的な段階であるが、高校家庭科教育と生涯教育の関連性強化の方向に発展し得るものと思われる。